

- 1 区民まちづくり基金活用事業

【議事内容】

< 所管課からの説明 >

< 主な質疑 >

(中本委員)

コストについて、事業費と負担金及び委託料の合計との差額は直接実施の経費か。

(所管課)

その通り。

(中本委員)

人件費について、正規職員 23.395 人の算出根拠は。

(所管課)

各区ごとに事業に関わった人数を合計して算出した。

(中本委員)

各事業ごとのコストは。

(所管課)

今日は用意していないが、開示することは可能。

(司会)

主だった事業の金額はどれくらいか。

(所管課)

大きな事業で 300 万円～700 万円程度である。

材料費（ごみ袋や手袋など）のみの、ほとんどコストのかからないものもある。

(岡島委員)

事業を企画する際、区民意見をどのように聴取しているか。

(所管課)

まちづくり会議において事業提案されることもあるが、メッセージカードのような方法で区民の意見を聞いている。

しかしながら、事業そのものよりも、ハード面の要望が多い。

(山田委員)

区長マニフェストはあるか。

(所管課)

マニフェストではないが、区の運営方針により意識統一されている。

(山田委員)

財源が足りなくなった場合はどうするのか。

(所管課)

我々としても課題と認識している。

しかし、市民参加で実施している事業なので、基金財源がなくなったからやめるという事業ではない。基金という形態はあくまで財源の手法。

(富森委員)

事業実施数が増えているかどうかよりも、事業の中身で評価すべきではないか。

(所管課)

基金事業には約 100 件の個別事業があり、全体の評価として、実施数の増加を採用した。個別事業ごとの検証は行っている。

(富森委員)

個別事業の検証結果で紹介できるものはあるか。

(所管課)

南区のキャンドルナイトは、狙い通り若者が集まり好評であった。参加者にも喜んでもらったようで職員も手応えを感じていた。

(松田委員)

イベント参加者のうち区民がどれくらい参加しているのか把握しているのか。

(所管課)

どこから来たのか？というアンケートは実施していないので、今後は取り入れていきたい。

(山田委員)

事業実施後の成果や影響についての評価は行っているか。

(所管課)

事業実施により確実に良い効果が出ているものもたくさんあるが、すべてについて聞き取れていないのが現状である。

今後はそのような視点を大切にしたい。

(岡島委員)

効果評価の広報にも力を入れてほしい。参加人数だけではなく、質的な効果についてもホームページ等で公表してほしい。

(岡島委員)

区民と行政の協働を長期的な視点で育てて行ってほしい。

(岡島委員)

区民と行政が一緒になってまちづくりを行うことが今後重要になってくる。そういう意味で約 2 億円という資金規模は適正なのか。他の政令指定都市がもっと予算規模が大きいということを含んで検討してほしい。

(山田委員)

次のステップとして、市民が事業をコーディネートしていけるような取り組みを基金事業で行っているか。

(所管課)

南区ではアクティブカレッジや人材活用コンサルティング業務を通じて、市民コーディネーター育成の取り組みを行っている。

(中本委員)

比較参考値に挙げた他の政令指定都市の予算規模は、各市堺市と同じ事業を対象としたものか。

(所管課)

他の政令指定都市に考え方を説明し、照会をして得た数値であるが、市によっては区の権限が多く、それに付随した事業費が含まれている可能性もある。

(司会)

事業選定のプロセスはどのようなものか。区民ニーズや区域課題に応じた事業選定ができてきているのか。

(所管課)

南区であれば、まちづくり会議やラウンドテーブル、アクティブカレッジから出た意見を実行に移せるかどうかの実証を行った上で、事業に移す形態をとっている。半分くらいは区民提案の事業が実施できている。

課題解決のみならず、区の魅力をアピールする取り組みを行っている。

(岡島委員)

市民人権総務課所管の区民まちづくり基金と、市民協働課所管のまちづくり支援事業、市民活動支援基金事業の違いは。

(所管課)

市民人権総務課所管のものは、区役所が市民の拠点となるという視点で市がリードする事業であり、市民協働課所管のものは、市民活動団体が行う事業への支援である。

同じ基金であっても、目的と対象者が異なる。

(山田委員)

各区における競争と協働の状況は。

(所管課)

毎週開催している区長会議で各区の事業について情報共有することにより、区間の競争で堺市がよりよくなればと思っている。

また、2つの区で1つの事業を協働で行うこともある。

(富森委員)

住民に近いところでこのような事業を実施していくことは非常に良いこと。

本来的には拡大したい事業であるが、評価指標がしっかり確立されないと多大な無駄が生まれるおそれもある。

< 評価 >